

ときを語る

日本と台湾

中嶋嶺雄さん (中国学者)



「ピークの時に『アジア・オープン・フォーラム』を終えたことは幸せです」と語る中嶋嶺雄さん
東京府中市の東京外大長室

交流もっとオープンに

「日本と台湾の有識者が話合う『アジア・オープン・フォーラム』をなぜやろうになったかと言った、一つは李登輝さん(台湾の前総統)との約束があるんです。一九八五年に李さんと最初にお会った時以来、これまでの国民党と自民党政治家のような利権に結びつきがちな付き合いがなく、透明性の高い知

松本市で開かれた会議を最後に歴史的使命を終えた訪日は当然だという声が強

「日本と台湾の有識者が話合う『アジア・オープン・フォーラム』をなぜやろうになったかと言った、一つは李登輝さん(台湾の前総統)との約束があるんです。一九八五年に李さんと最初にお会った時以来、これまでの国民党と自民党政治家のような利権に結びつきがちな付き合いがなく、透明性の高い知

「日本は対中国外交において主体性を失っている」と思いますが、李さんは今や一市民だから、日本は訪日拒否する理由が見つかるはず。中国側は批判するかも知れないが、それがいいとは思いません。台湾の民主化は、中国の民主化を促すことになると思います。大陸の方が天安門事件で歴史の悲劇のつまずきを刻ん

「李さんはまた、野党(民主進歩党)から総統が出来るシステムをつくり、初

横顔

なかじ論、「香港 移りゆくま・みね 都市国家」、李登輝氏との共著「アジアの知略」

メモ

アジア・オープン・フォーラム

1989年、第1回会議を台北市で開いた。参加者は学者のほか政治家、財界人など幅広いに及び、日台関係の新しい人脈構築に貢献した。李前総統の退場に伴い最終回となった松本会議の全体テーマは「21世紀のアジアの知的戦略」。